

12.21(土)
13:30~

日本女子大学目白キャンパス百年館 104教室

JR山手線「目白」駅 徒歩：約15分、バス：約5分「日本女子大前」下車
(学05) 日本女子大学前行 (学バス)
(白61) 新宿駅西口行き、または、椿山荘行
東京メトロ副都心線「雑司が谷」駅 (3番出口) 徒歩：約8分
東京メトロ有楽町線「護国寺」駅 (4番出口) 徒歩：約10分

司会 家政学分科会 多屋 淑子氏

13:30~13:40 はじめに

生活科学系コンソーシアム会長・家政学分科会委員長
小川 宣子 氏

13:40 ~14:20 日本の服飾史からまとうことを考える

長崎 巖 氏 (服飾文化学会)

14:20 ~15:00 海外の民族服からまとうことを考える

佐々井 啓 氏 (国際服飾学会)

15:00 ~15:10 休憩

15:10~15:50 着やすく動きやすい衣服について考える

— おしゃれして輝く —

平林 由果 氏 (日本衣服学会)

15:50 ~16:30 人を生き生きとさせる被服の色彩について考える

山蔦 圭輔 氏 (日本健康心理学会)

16:30 ~17:10 まとうことと環境との関わりを考える

大矢 勝 氏 (日本繊維製品消費科学会)

17:20 ~18:50 懇親会

事前申込不要・入場無料

「まとうことについて考える」

第8回 生活科学系コンソーシアムシンポジウム

開催趣旨

生活科学系コンソーシアムは、日本人の生活向上を目的とした学会活動の活性化と社会貢献を目指し、日本学術会議と生活科学関連学協会の情報交換と連携を図るための連合体で、現在は16の学協会から構成されています。生活科学系コンソーシアムでは今年の4月に構成学会に対し、健康で豊かなくらしを営むために小・中・高等学校で必要と考える教育内容や社会への発信情報についてアンケートを実施しました。

健康で豊かな生活を営むためには、「食べること」「まとうこと」「住まうこと」「子どもを産み育てること」「家庭生活を営み社会の中で生きること」の各領域の知識や技術・技能が必要です。これまで「健康」については、「食べること」からの情報は多く見られますが、それ以外の領域からの情報は極めて少ないのが現状です。

本シンポジウムは各構成学会からのアンケート結果と、各領域のひとつであり、これまであまり取り上げられてこなかった「まとうこと」に視点をあて、「まとうこと」が健康で豊かなくらしとどのようにかかわっているのか、複合的な視野から考えていくことを目的としています。

多数の皆様のご参加をお待ち申し上げております。

主催 生活科学系コンソーシアム

日本学術会議 健康・生活科学委員会 家政学分科会、
国際服飾学会、日本衣服学会、一般社団法人日本家政学会、日本家庭科教育学会、
日本消費者教育学会、公益社団法人日本食品衛生学会、日本食生活学会、一般社団法人日本調理科学学会、服飾文化学会、一般社団法人日本繊維製品消費科学学会、
生活経済学会、一般社団法人日本保育学会、公益社団法人日本食品科学工学会、
日本健康医学会、一般社団法人日本健康心理学会、日本健康科学学会

【日本女子大学キャンスマップ】

